

壁を乗り越える

(年取るといふこと日誌 2008年2月3日から)

CL教育研究会 遠間美保子 amhotm@gmail.com <http://docl.jp>



年に
や日

ウォーキングの目的地の一つ、法華経寺境内奥にある聖教典は七十七年前、昭和六
建造された宝物殿で、石造の屋根が丸い長円錐形をした強固な建物だ。中には国宝
蓮上人直筆など六十数点の宝物が保管されている。その建物の周囲はやはり石の柵で囲まれ、中央に木製の
柵の出入り口があり、鍵がかかっている。その囲いまでは階段があり、周囲は広場になっていて、さらに2
0段ほどの石段上にある。本堂に訪れる人は多くあるが、ここまで来る人は稀である。年に一、二度宝物殿
が僧侶によって開けられるときは一般の人は周辺に近づかないよう止められ、厳粛だ。

聖教典の周囲は椎、ツツジ、桜、紅葉、ケヤキ、樅などの大木に囲まれ、森林の佇まいを見せる。十数年間、
一年のうち、三百日以上ここを訪れているが、この聖教典の囲いの中に人が入っていたのを見たことはない。
最初の石段を上った囲い前で、深呼吸や体操をしていると後ろから「お邪魔します」と青いロングのダウ
ンコートを着て、白い毛糸帽をかぶり、眼鏡をかけた中高年の女性が通り抜けた。静かなこの佇まいで、静
かに体操をしている私に丁寧に挨拶をしてくれたのかと、黙って会釈した。柵の周りを巡って出入り口まで
の階段を登ったその女性は、突然、石造の柵を乗り越えた。信者にとっては聖域でもある柵をまたいで入り
込むのは、よほどの目的があるのだろうか。そのとき「お邪魔します」は私にではなく、聖教典に断ったの
だとわかった。聖教典の建物の高い屋根の部分には象、獅子、羊などの動物が彫刻してある。建物の後ろ側
はどうなっているか、確かめたかったのだろうか。それとも中に入れる手立てはないか観察したのだろうか。
人の目的はいろいろだから自分もったこともない目的で予想をしない行動にでくわすと、「そういう手もあ
ったか」と感心し、その人の印象が広がり視野が開かれる。壁を乗り越えるならこうすればいいと教わった
ようだ。一瞬一瞬、思いがけない場でおもしろい事実からのプレゼント。これだからウォーキングはやめら
れない。(千葉県市川市CLインストラクター)

 [目次へ戻る](#)